



Business Edition 6000H/M の NIC チーミングの設定

- [NIC チーミング, 1 ページ](#)
- [ESXi の NIC チーミングの設定, 2 ページ](#)
- [スイッチの NIC チーミングの設定, 3 ページ](#)

NIC チーミング

ハイパーバイザ NIC チーミング機能により、複数の物理アダプタを vSwitch に関連付けて、外部ネットワークにロードシェアリングおよびフェールオーバー接続を提供することができます。

フェールオーバーとロードバランシング

追加の物理アダプタを vSwitch に割り当てるときに、アクティブまたはスタンバイとして割り当てることができます。サーバの物理ネットワークへの接続方法に応じて、仮想マシンからのトラフィックはアクティブ接続全体で負荷分散することができ、リンク障害が発生したときにスタンバイアダプタがアクティブになって引き継ぎます。

スイッチドネットワークトポロジ

障害に対する復元力を最大化するため、通常、チーム化されたインターフェイスが別のスイッチング機器に接続されます。これには、シャーシへの別のラインカードの接続、スタックへのスイッチの接続、または、完全に独立したデバイスへの接続が含まれることがあります。

独立した物理スイッチを使用する場合、チーム化されたインターフェイスをアクティブに設定して、ループを発生させる接続を Ethernet スパニングツリープロトコルでブロックします。リンクやスイッチに障害が発生した場合は、スパニングツリープロトコルがサーバへの保守可能な接続を使用するように再収束します。VLAN トランッキングを使用する場合は、通常、スパニングツリープロトコルを VLAN ごとに設定して、通常動作下の DMZ や内部ネットワークトラフィックに異なる接続を使用します。

IEEE 802.3ad リンク集約をサポートする共通論理スイッチ（つまりシャーシまたはクラスタ）に対して接続した場合は、通常動作下のリンクグループのすべてのアクティブメンバ間のトラフィックを負荷分散できます。リンク集約は、スパニングツリーよりも迅速にリンク障害に対応でき、VLAN には透過的であるため、専用ネットワークまたは VLAN トランク接続に使用される場合があります。

次の表に、Business Edition サーバがネットワーク分離と NIC チーミングにどのように対応できるかを示します。

ESXi の NIC チーミングの設定

手順

-
- ステップ 1** vSphere クライアントにログインします。
- ステップ 2** 左側のインベントリ パネルで、ホストアイコンをクリックします。
- ステップ 3** [設定 (Configuration)] タブで、[ネットワークング (Networking)] を選択します。
- ステップ 4** [プロパティ (Properties)] をクリックし、スイッチの設定にアクセスします。
- ステップ 5** スイッチに追加する必要がある物理アダプタを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
(注) マザーボードと PCI カードのネットワーク アダプタを組み合わせることを推奨します。
- ステップ 6** [上へ (Move Up)] および [下へ (Move Down)] ボタンを使用して、追加したポートのフェールオーバー ポリシーを調整します。アダプタをフェールオーバーで使用する場合は、そのアダプタを [アクティブ アダプタ (Active Adapter)] リストから [スタンバイ アダプタ (Standby Adapter)] リストに移動します。
- ステップ 7** [Next] をクリックします。
- ステップ 8** [終了 (Finish)] をクリックします。
IEEE 802.3ad リンク アグリゲーションを設定する必要がない場合は、vSwitch のプロパティ ページを閉じて、残りの手順をスキップできます。
- ステップ 9** IEEE 802.3 リンク アグリゲーションを設定します。
- [vSwitch0 のプロパティ (vSwitch0 Properties)] ページで、[ポート (Ports)] タブを選択して vSwitch オブジェクトを [編集 (Edit)] します。
 - [NIC チーミング (NIC Teaming)] タブを選択します。
 - [ロード バランシング (Load Balancing)] ドロップダウン メニューから、[IP ハッシュに基づくルート (Route based on IP hash)] を選択します。
 - [OK] をクリックします。
-

スイッチの NIC チーミングの設定

サーバインターフェイスを集約する場合は、802.3ad リンク アグリゲーションを使用するように接続先のスイッチポートを設定する必要があります。次の例に、Cisco Catalyst スイッチへの VLAN トランキングを使用してこれをどのように設定するかを示します。

```
vlan 1
  name default
!
vlan 30
  name DMZ
!
interface GigabitEthernet1/1
  description BE Server Network Interface 1 (Internal/DMZ trunk group)
  switchport trunk allowed vlan 1,30
  switchport mode trunk
  spanning-tree portfast trunk
  channel-group 1 mode passive
!
interface GigabitEthernet1/5
  description BE Server Network Interface 2 (Internal/DMZ trunk group)
  switchport trunk allowed vlan 1,30
  switchport mode trunk
  spanning-tree portfast trunk
  channel-group 1 mode passive
!
```

サーバインターフェイスを別のスイッチに接続する場合は、標準のトランクポート設定（チャンネルグループなし）を使用します。スパニングツリー PortFast は使用しないでください。

```
vlan 1
  name default
!
vlan 30
  name DMZ
!
interface GigabitEthernet1/1
  description BE Server Network Interface 1 (Internal/DMZ trunk)
  switchport trunk allowed vlan 1,30
  switchport mode trunk
!
```

必要に応じて、スパニングツリー VLAN の `cost` コマンドを使用してリンク間でトラフィックを分散できます。

